

令和5年5月12日
国土交通省関東地方整備局
利根川ダム統合管理事務所
独立行政法人水資源機構
沼田総合管理所

「藤原・奈良俣再編ダム再生事業完了式」を開催します

～関東地方で初のダム再生事業が完了しました～

「藤原・奈良俣再編ダム再生事業」が令和4年度末をもって完了し、令和5年度の出水期より更なる治水効果の発現が可能になります。このため、多くの方々に本事業や事業の完了について周知させていただくため、完了式を下記のとおり開催します。

開催日時 令和5年5月20日（土） 12時30分～13時35分

（受付開始は12時00分から。終了時間は式典の進捗により前後する場合があります。）

開催場所 ヒルトップ奈良俣（防災資料館）及びダム左岸天端広場
（群馬県利根郡みなかみ町大字藤原地先）（別紙1）

主催 国土交通省 関東地方整備局 利根川ダム統合管理事務所
独立行政法人 水資源機構 沼田総合管理所

招待者 地元代表者、みなかみ町、群馬県、
国会議員をはじめとする関係者の皆様

次第 開催挨拶、来賓挨拶、来賓紹介、祝電紹介、事業報告、セレモニー

※なお式典当日は、「みなかみ3ダム春の点検大放流2023」が開催予定であり、一般来場者も式典をモニターにて傍聴いただけます。

<発表記者クラブ> 竹芝記者クラブ 神奈川建設記者会 刀水クラブ・テレビ記者会
水資源記者クラブ 沼田記者クラブ

<問い合わせ先>

関東地方整備局 利根川ダム統合管理事務所

電話：027-251-2021（代表） メール：ktr-tonegawadam@mlit.go.jp

副所長（技術） 土谷 智行（内線：205）

管理課 建設専門官 熊川 毅（内線：402）

独立行政法人水資源機構 沼田総合管理所

電話：0278-24-5711（代表）

総務課 課長 假屋 幸一（内線：2211）

管理課 課長 笠井 昭彦（内線：2331）

1. 会場案内図



2. 取材にあたっての留意事項

- ・取材の事前申込みは、別紙2により、5月18日（木）12時までにメールにてお申し込みください。
- ・会場内では主催者の指示に従うとともに、式典進行等の妨げにならないようご協力をお願いします。
- ・会場警備の都合上、取材される際は必ず取材社証（腕章）をご持参の上、ご着用頂きますようお願いいたします。
- ・お申し込み頂きました報道機関の方には、メールにて当日の会場内への出入りに必要な「通行証」をお送りします。式典会場にお越しの際には、「通行証」をダッシュボード上に置いて頂きますようお願いいたします。
- ・駐車できる場所につきましては、通行証と合わせてお送りいたします。当日の駐車位置は、会場内の係員の指示に従ってください。
- ・中継車などの放送機材車両の駐車が必要な場合は、事前に別途ご連絡をお願いします。
- ・取材時には現地受付にて名刺をご提出頂きますようお願いいたします。
- ・参加者多数の場合、人数の調整をお願いする場合があります。
- ・会場内での、無人飛行機（ドローン等）の使用は、ご遠慮願います。

「藤原・奈良俣再編ダム再生事業完了式」取材申込書

1. 貴社名

2. 代表者氏名(ふりがな)

 ()

3. 取材者人数

 名

4. 当日の車両

車種:

 車体色:

ナンバー:

5. 通行証の送付先(メールアドレス)

 @

6. 連絡先(携帯電話)

 ()

※当日に連絡が取れる番号を記入願います。

お申し込み先 メール: ktr-tonegawadam@mlit.go.jp

利根川ダム統合管理事務所 管理課 熊川、松尾 行き

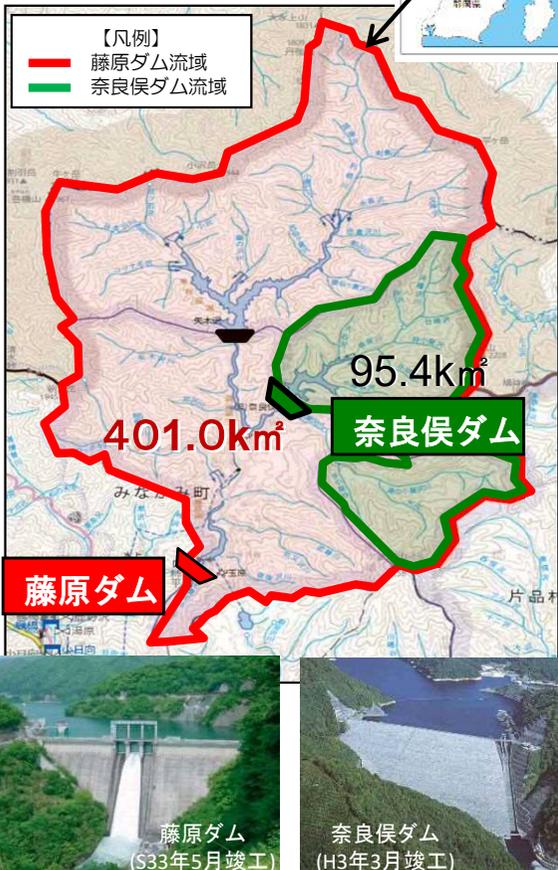
電話: 027-251-2021(代表)

※申込書に記載されている情報は、本目的以外には使用しません。

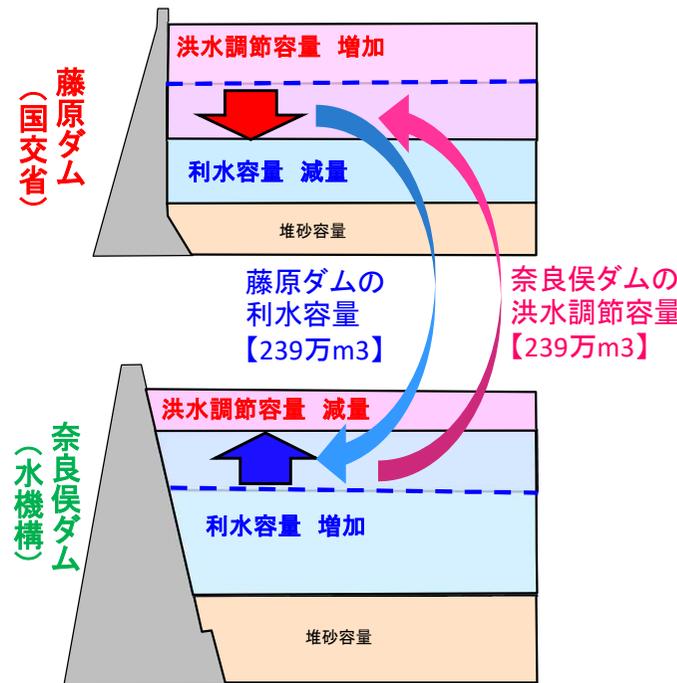
藤原・奈良俣再編ダム再生事業の概要

- ◆本事業は、既設ダムを有効活用する『ダム再生事業』です。
- ◆藤原ダムの利水容量と奈良俣ダムの洪水調節容量の一部を振り替えることを目的としており、奈良俣ダムより下流に位置し、流域面積が大きい藤原ダムに洪水調節容量を増加させることで、様々な洪水パターンに対し、ダム下流への洪水調節効果を更に発揮させることができます。
- ◆ダム再生事業は、全国で実施中ですが、本事業はそれらの先駆け的な事業として、令和元年度に事業着手し、令和4年度までの4年間で事業を完了させ、早期に治水効果を発揮するものです。

○位置図



○藤原ダムおよび奈良俣ダムの貯水容量概念図



※洪水期の貯水池容量を示す。

○工期；令和元年度～令和4年度
(4年間)

○事業費；17億円
 (内、藤原ダム 約8億円)
 (内、奈良俣ダム 約9億円)

○事業内容；

- ・藤原ダムにおいては、利水放流設備が常に洪水調節として活用できるよう、副ゲートの追加の改良を実施
- ・奈良俣ダムにおいては、洪水貯留準備水位の変更(水位の上昇)に伴い、クレストゲートの位置・内蔵ゲートの改良(1門→2門)を実施

